

こうちょう おも 校長の念い



ず せいさくしゃ
図 制作者
ぶんげい しょうぶ
文芸・書道部
ねんぶんげいぶいん
3年文芸部員

かてい おも こうどう こころが う
家庭で、思いやりの行動を心掛けよう！

ぜんごうはっこうび ほんじつ だい かいていき ねんせい しんろ そうだんかい ねんせい
前号発行日から本日まで、第3回定期テストや3年生の進路相談会、2年生のSASAや
1、3年生の確認テストが行われました。皆さん自身の念いがかかった結果でしたか。

ところで、2学期の始業式に「情けは人のためならず。思いやりを伝染させよう！」とい
う念いを伝えました。その念いが実現できたかどうかを教えてください。発表ノートに、
次の2つの内容について入力してもらいました。

- あなたが行った「誰かを手伝ったり、助けたりしたこと」
- 他の人から受けた「手伝ってもらったり、助けてもらったりしたこと」

2年生の内容を3学期の始業式に、3年生の内容を卒業式に、1年生の内容を3学期の終
業式に、わざわざですが紹介するので、楽しみにしてください。

今学期も、思いやりに関する作文の発表を聞きました。「小さな親切作文コンクール」福
井県知事賞、1年生の高橋愛さんの「髪の毛でつなぐ思いやり」です。皆さん、「ヘアドネ
ーション」（ヘア（髪の毛）+ドネーション（寄付））を知っていますか。福岡県庁のホー
ムページには、次のように書かれていました。

- 小児がんなどの病気や事故等により髪を失った子どもたちのために、寄付された髪の毛を使用して、ウィッグ（かつら）を作り、無償で提供する活動のこと。
- 1つのウィッグ（かつら）を作るには、31cm以上の長さの髪の毛が、20~30人分必要。

高橋さんは、小学2年生で「ヘアドネーション」を知り、家族の賛成を得て、髪の毛を31cm
以上に伸ばしました。美容師に「この髪の毛でウィッグを作ってもらおう」と言われたとき、
「やって良かった」と心から思いました。相手に会わなくてもできる思いやりがあります。
現在、2回目のヘアドネーションに役だてるための髪の毛の寄付を視野に入れてあります。このよう
な内容でした。いろいろな思いやりの方法があるので、皆さんも思いやりの心を忘れずに、
明日からの17日間の冬休みを生活してほしいと思います。

そこで、第11回目の「念い」は、「家庭で、思いやりの行動を心掛けよう！」です。どん
な些細なことでもよいです。例えば、「進んで家族の肩をたたいたり、もんだりする。」「家
族が荷物を持っていたとき、自分から進んで持ってあげる。」「見たいテレビがあっても、家
族のためにチャンネルをゆずる。」「嫌いな料理が出て、作ってくれた家族の気持ちを考
えて、食べる。」などです。学校だけでなく、どこにいても、どんな相手にでも、思いやりの
心で行動できるような中学生になってください。